

話題の人

ユーチューブ校長といわれて

糸井 利則 (23期生 大阪市立磯路小学校長)

「元気ですか? ながらボイスの時間です。」

昨年3月、いきなりの休校宣言により、卒業式を前に、子どもたちの姿が学校から消えた。そこで、一方的ではあるが、毎日、ユーチューブ動画配信を続けた。6年生送る会も式の練習もなく、いきなり卒業式本番。卒業式前夜には、日本中の6年生たちに向けて、コツコツ努力することの大切さを、実際に壺に水を溜めていく動画で発信した(写真)。



そして、転勤。新天地に赴き、すぐに緊急事態宣言が発令され、入学式も始業式もないまま新年度がスタートした。動画配信を再開し、ユーチューブで着任の挨拶を届けた。

学校再開まで土日関係なく毎日動画配信を続けた。そして初の登校日。多くの子どもたちはすでにユーチューブで新しい校長先生のことは知っていて、「本物や!」「ほんまに声ながらや」「ユーチューブ見てたで」と声をかけてくれた。

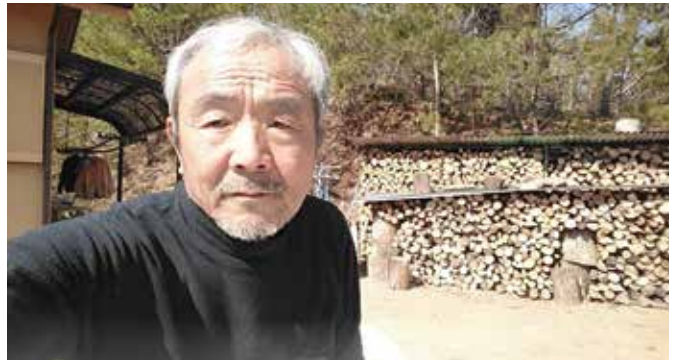
その様子をテレビカメラがとらえ、記録映像として残っている。ABCニュースキャスト「苦難の時 ユーチューバー校長」で検索して見ることができる。

今、当たり前前の日常があり、学校には子どもたちの声が響いている。この有り難さに感謝して、これからも子どもたちとともに生きていく。

恩師から

思い出深い東住吉高校 校歌とともに

高辻 道久 (元、社会科教諭)



♪「風清し ~ イチョウの木陰 ~」、この歌がいま私の口ずさめる唯一の校歌です。自分が通い卒業した学校、そして教員として勤務した4校の中で、この東住吉高校校歌は本当に思い出深い歌です、「薔薇は清純!」、私もよく歌いました。

東住吉には1975年から13年間、社会科日本史の教員としてお世話になりました。そして生徒会の仕事が多かったこともあり、あの体育祭では立場は違えどもたぶん生徒と同じように興奮し、感動しそして校歌を歌っていたのです。

2001年に51歳で教員をやめ山口県へ1ターン、森林組合の作業員になりました。山で樹を育てる仕事がしくて、そして農作業に汗を流す生活に入るため、住み慣れた大阪を離れました。

今年でちょうど20年、71歳にもなりましたが、愛用のチェーンソー片手に今も山に入って間伐やらシイタケ原木の切り出し等の山作業を、木の香りとともに元気で楽しくやっています。山口方面へお出かけの節は、ご連絡ください。最近お気に入りの「焚き火」を囲んで、懐かしい話などしたいですね。

この1冊 「天涯の海 酢屋三代の物語」 車 浮代 (車取 和代 26期生) 著



伊原 徹 (17期生)

本書は、酢醸造メーカー、ミツカンの創業前から三代の中野又左衛門の半生と試練、江戸前寿司への関与について史実を基に描いた物語です。

本家の酒蔵当主のつなぎとして婿養子となった増倉屋三六(後の初代中野又左衛門)は、酒造にとって禁忌である腐造にも繋がりがかねない酢造りに逆転の発想で踏み出し、酒粕を素に米酢より安価に大量製造できる方法を開発。当初から酢造

りに専念した二代目は、3年熟成上級酢ブランド「山吹」を江戸専売品として提供して一気に販路を拡大しました。

後、3代目は江戸での最大得意先であった森田半兵衛に販売預託する特約店制に切り替え、安定供給の道を開き、今のミツカンの基礎を築きました。

奇跡ともいえる成功の陰には、主人公たちを支えた人々との出会いと別れがあり、様々な困難に立ち向かう人々にとって、いかに縁が大切であるかを、まるでドラマや映画を見ているような鮮やかできめ細やかな表現で綴られています。

なによりも、押し寿司や馴れずしが一般的であった時代に、安価な酒粕酢を使った甘味とコクがある酢をからめた早寿司として、江戸前寿司が頭角を現してゆく様は、江戸料理文化研究者として筆者の面目躍如というべき視点で描かれています。今や世界に名をはせるSUSHIの原点と酢の関係がよくわかる良書です。(潮出版社 1600円+税)